

## コウヨウザンのテーブルを展示

農林水産省「消費者の部屋」で

農林水産省「消費者の部屋」で五月二十七日（月）～三十一日（金）まで、「自然の美しさとぬくもりを暮らしの中へ」をテーマに、ツキ板や早生樹の魅力を紹介する特別展示が開催されました。四国森林管理局からは「夢の早生樹」コウヨウザン三世代プロジェクトの一環として、四万十森林管理署管内の辛川山試験地で、ぼう芽更新により生育した二世代のコウヨウザンで製作したテーブルとイス等を展示しました。（写真上）また、「三世代プロジェクト」の取組もパネル等で紹介しました。

今回の展示では、多くの方々にコウヨウザンを見て、触れていただく中で、「板にある黒い点状の模様は」、「材の硬さは」、「早く育つ木なので、どんどん植えて欲しい」などの意見等をいただきました。（写真下）  
今後「三世代プロジェクト」を推進していきます。



## 間伐材で「木のストロー」を

6月下旬、夕方のNHKテレビを見ていると、国際的な問題となっているプラスチックごみの排出削減策の一環として、間伐材を使用した「木のストロー」（写真HPより）を開発したニュースを目にした。



開発した会社アキュラホーム（東京都）によると、国産のスギ材を0.15mmまで薄く加工。4日間ほど除湿室

で。その後、口に入れても安全な糊で筒状に巻いて製造。木のストローは、5月に新潟市で開かれたG20のホテルでも採用された。

木のストローは、環境対策に加え、林業の活性化にもつながると期待されている。

### 編集後記

「春の緑の募金活動」に、森と緑の会からお礼文が届きました。募金は森林整備等の推進へ。7月、暑さ本番に向けて、更なる体調管理を。



## 「葉や枝に集まり大きくなる雨粒」って



雨が急に降り始めた時、木陰に入り雨宿りを。しかし、雨が長く降り続けると、やがて樹の下でも身体が濡れはじめ、ときには樹の下の方がより濡れてしまうことも。これは、葉や枝に蓄えられた雨粒が枝の「たわんだ部分」に集中するためだと。

このような樹の下に降る雨を「林内雨」「樹冠通過雨」と呼ぶ。俳句の世界では、青時雨（あおしぐれ）、「青葉時雨」（あおばしぐれ）という季語で言い表す。

森林で雨が最初に出会うのは葉や枝。雨粒は、葉や枝にくっついたり、もしくはぶつかって砕けたり、飛沫になったり。雨粒は、葉や枝の表面の性質によって、のっぺりとくっついたり、まるで球のように乗っかったり、くっつき方も様々。

葉や枝の上で、やがて雨粒は集まって結合し、林外では降らないような大きな雨粒を作る。雨粒は、一つ一つは極めて小さな粒だが、葉や枝での水滴の作られ方を調べていくことで、樹木がどうやって濡れていくのか、また、地面にどうやって雨が到達していくのか。

これらの小さなことの積み重ねが、森林と水の関係を作り出す。

（季刊 森林総研 43号より）